

平成20年 6月21日
河川局河川環境課流水管理室
河川局砂防部砂防計画課

宮城県 栗駒ダムへの異常流入を踏まえた現地調査結果について (速報)

平成20年6月21日午前0時30分に、栗駒ダムの流入量が急激に増加したとの報告を踏まえ、国土交通省の防災ヘリにて、国土総合政策技術研究所の砂防専門家がダム上流域における現地の状況を確認した結果（別添「調査概要」「コメント」）をお知らせします。調査結果については、調査した専門家が16時から宮城県栗原市役所において、説明を行う予定です。

なお、現在、栗駒ダムへの流入水量は安定しており、17時30分頃には異常流入前の水位に回復する予定です。

問い合わせ先

【栗駒ダムについて】

河川局河川環境課 大臣官房付 清水 晃
TEL03-5253-8111(内線35-446)
TEL03-5253-8449(直通)

【現地調査について】

河川局砂防部砂防計画課 砂防計画調整官 西山 幸治
課長補佐 佐藤 保之
TEL03-5253-8111(内線36-102、36-142)
TEL03-5253-8467(直通)

調査概要

1. 現地調査日時：平成 20 年 6 月 21 日 11:00～13:00
2. 調査者：東北地方整備局、国土技術政策総合研究所
3. 調査位置：宮城県栗原市沼倉裏沢地区付近（三迫川）
4. 記者会見日時：6 月 21 日 16 時～
5. 説明者：国土技術政策総合研究所 危機管理技術研究センター
砂防研究室長 小山内 信智
6. 記者会見場所：栗原市役所（2 階庁議室を予定）

せき止められた水の圧力によって天然ダムが決壊したものではない。越流した水により天端の一部が浸食拡大しさらに下流の土砂を巻き込んだものである

その後、大きな石は直下流の砂防堰堤で止めた。さらに、堰堤群（床固め程度）で礫分を止めた。その後泥水となって下流部に流れ、栗駒ダムに流入したものである。

なお、水位が低下したことによって今のところ更に呑口が急激に浸食をおこすとは考えられない。